

No. 91

2013年 (平成25年)
11月1日

発行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
片桐 淨 映



目に見えぬ慈悲が六字の
ナムアマミダブツ
それがぶつぶつゆうて催促
ナムアマミダブツ

妙好人 浅原才市翁



日高組「子どもの集い」－キッズサンガー

阿弥陀経に聞く

信受を勧める

「このゆゑに舍利弗、なんぢらみなまさにわが語および諸仏の所説を信受すべし」
このような利益を得るのであるからと信受を勧められるのです。

「舍利弗、もし人ありて、すでに発願し、いま発願し、まさに発願して、阿弥陀仏国に生ぜんと欲はんものは、このもろもろの人等、みな阿耨多羅三藐三菩提を退転せざることを得て、かの国土において、もしはすでに生れ、もしはいま生れ、もしはまさに生れん」

「已発願今発願当発願」と阿弥陀経を読んでいてリズムカルなところで、ここは、過去↓現在↓未来という順をいって、東南西北上上の仏さんを出してあらゆるところというのを説かれているのに対して、時間の経過をいうのです。過去に仏になろうと思ったら過去に仏とすでになっており、現在に仏になろうとするものは今に仏になるのです。過去の人が長く時間がかかって未来に仏になるのはありません。そうです。アミダさまは五劫という長い時間をかけて、私たちが仏にならせようと考えてくださった。今ものが今に仏になれるようにしてくださった。

真宗は、南無阿弥陀仏を聞き、仏になれる身を喜ぶ人は、今生きているうちにお浄土参りができる身と決定した人となり、横綱が二度と大関に位落ちしないように、二度と下位に沈むこともなく、命終えたときに、仏となるのです。

この世では仏にならない。生きたまま仏となるのは即身成仏を説く真言宗です。弘法大師は、奥の院で生きておられるのです。真宗は、お浄土参りに行ける身と現世で迷える身でありながら決定し、死んだら身心から起る迷いがなくなり仏となるのです。

願生を勧める

「このゆゑに舍利弗、もろもろの善男子・善女人、もし信あらんものは、まさに発願してかの国土に生るべし」
信心を挙げて願生を勧めています。

(永原智行)

車

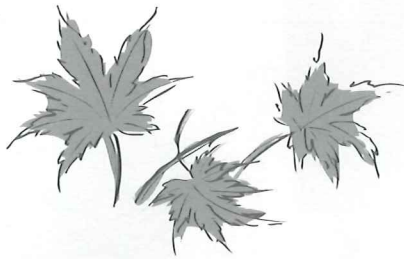
車という名の付いたものは皆、物に乗せるものである。「口車」「詐欺車」等は無知な者に乗せるもので大量に又は一人乗せるものもあるが船に譬えることもある。

弥陀の本願は一切衆生悪業煩惱そのまゝに乗せるものである。乗せたら必ず出発する。迷いの世界から覺りの世界へである。昔は一人乗りの人力車があった。本願の車は一人乗りである。だから乗るまで待っているのである。乗ったらすぐ出発するのである。カラの車を挽いて行く人力車があった、気の毒なものだ。十劫以来空車を挽かせたのは誰か。人力車を挽いてゆくのは賃金が目的だが、弥陀の本願はそうではない。行先も知らぬ私は、落ちること進む力もない、そのまゝお浄土へ挽いてゆく、つれてゆく大悲の車である。お前のために仕立てた車

だといえよソレハソレハと言つてその人力車を頭の上へ頂いている信心深い人がある。何と力の強い人ではないか、私一人の爲の車ならばソレハソレハと土足のまゝで乗ることだ。

自力の念仏は自転車に乗るようなものだ「植諸徳本」と両方の足で踏まねば倒れる。

(藤田孝雄)



門徒心得

「おむかえ」

ば私は裁かれると言うことです。どうでしょうか、自信ありますか？キリスト教の神様も最後に審判を下します。臨終を迎えるにあたって裁判官のような仏様・神様に裁かれゆくことを思うと不安きわまりないことでしょう。

親鸞聖人は「それは弥陀様への誤解です、そんな仏様を想像してはいけません」と否定されました。「信心の定まるとき往生また定まるなり」弥陀様の仰せ「必ず救う」とお聞かせにあずかる今・現在、往生が決定しているのです。臨終を待つことも、おむかえを

たのむことも私にはいらないうことでした。また「ヒトタビトリテ ナガクステヌナリ」との仰せ、私の身は生涯捨てられることはございません。つまり私はどんな時でも、どんなに変わってようとも、どんな最後を迎えようとも弥陀様のお慈悲にいだかれています。弥陀様は「なんまんだぶつ」の仏様、いつもご一緒、我が身に満ち満ちてくださいます。そしてこの命終わるとき、弥陀様にいだかれてお浄土に参らせていただきます。

(岩崎法明)

阿弥陀様は昔より「命終わるその時に多くの聖者（菩薩）と共におむかえ下さる仏様」として民衆に人氣がありました。これを「臨終来迎」と申します。前回（90号）「死出の旅」のお話を思えばありがたいことです。命の際に金色の阿弥陀仏が聖者（先に浄土に参った方々も菩薩となつて）と共におむかえに来て下さり私を抱いて浄土につれてゆくとおっしゃる。何ともいいじゃないですか。人氣が出るのも当然ですね。ところが誰にでも、というわけじゃないようです。徳・善を積んだ者に対しておむかえなんです。私の人生に合否をつける。言い換え



彦根城を救ったのは「ご坊さん」

先日、本願寺新報で、江戸時代、火災で焼失した御影堂門の再建工事に大津や堅田(大津市)のご門徒が協力していたということが紹介されていました。江州(滋賀県)門徒のありがたさを感じる記事でした。私たちが紀州門徒も、ご本山との縁は深く、一時期はご門主様を紀州鷺の森にお招きしていたほどですが、江州も親鸞聖人、蓮如上人との結びつきは深いものがあります。

半年ほど前、彦根城を訪ねたことを思い出しました。彦根城には国宝の天守閣が遺されていますが、この天守閣も、明治時代、全国各地の城が取り壊されていく中、例外ではありませんでした。ところが、明治天皇がご巡幸で彦根を通られた際、城の保存を命じられたため、取り壊しをまぬがれたということ。それは

天皇に随行していた大隈重信が進言したといわれていますが、別の説があります。彦根市の近く、米原市にある本願寺派の長沢ご坊福田寺(ふくでんじ)が、天皇にお願いしたという説です。福田寺は、彦根城主井伊家と縁が深く、また当時の住職に天皇の後のいとこが嫁いでいたということから生まれた説でしょう。壊されたかけた彦根城をご坊さんが救ったといえます。

福田寺とご本山とのつながりは深く、蓮如上人も度々訪れ、境内にはお手植えの「蓮如松」があり、表門の風情が御影堂門と似ているように思えます。本願寺の歴史を感じました。

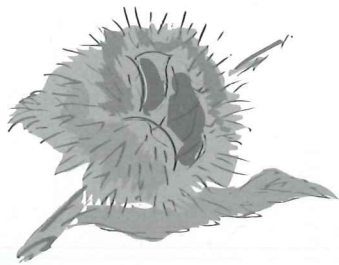
(亀井真竜)

読者の声

※「ひかり」を読むのが楽しいですが、クイズに参加するのも楽しみの一つです!

※残暑お見舞い申し上げます。いつも有り難うございます。いつも。

※ひかりを楽しみにしています。今年の夏は暑さきびしく、秋を待つ日々です。先日夏法座お参りさせて頂き、その日から少し涼しくなってきました。



法悦クイズ

阿弥陀仏の救いでどこへ行く?

次の1~3の中から一つ選んで番号を書いてください。

1. 天国
2. 冥土めいど
3. 極楽浄土ごくらくじょうど

90号の正解は、「2. 仏さまの救いのはたらきを、香りを通して味わうため」でした。

正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

由良町 磯崎 藤代 様 御坊市 塩田 廣一 様
 由良町 小林 民子 様 由良町 小林 照代 様

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、ご感想・ご意見等を明記の上、下記までお送りください。

〒649-1223
 日高郡日高町小浦195
 円行寺内 日高組事務所

※抽選で10名の方に粗品を進呈いたします。

※締め切り日
平成26年1月20日(必着)

※発表は次号

日高組寺院めぐり

日高組通信

光台寺(由良町吹井)

代務住職 桒崎 教信

(覚性寺住職)

当寺は、慶長十三年(一六〇八)三月、教最という人が、本願寺第十二世准如上人から方便法身尊形を授かり、これを安置するため糸谷惣道場を建立したのが開基といわれている。更に元禄十三年(一七〇〇)三月、本願寺第十四世寂如上人から木仏本尊阿弥陀如来を下賜され、同時に光台寺の寺号公称を許された。本堂再建については、「白崎村郷土誌」では、第三世教順在職中の元禄十二年(一六九九)



光台寺

七月としているが、当寺の古記録には、十九年後の享保三年(一七一八)に門信徒十四戸の浄財によって再建されたことが記されている。これからすると、災害等で二度建て替えられたのか、あるいは元禄時代の建物がまだ本堂として整っていないか、かつたのかいづれかであろうと思われるが詳しいことはわからない。また、阿戸、教専寺記録の「公方様御淀泊諸事控」によると、文久四年(一八六四)徳川第十四代將軍家茂が教専寺を本陣として休息した折、その二日前に下見分をした軍艦奉行らが光台寺に宿泊したことが記されている。以上が光台寺の由緒沿革で、由良町誌から引用させていただきました。現在の本堂は、平成三年に改築したものです。住職は平成三年四月に没してからは不在で、現在覚性寺住職が代務住職を勤めています。門徒数が十七軒と少数ですが、諸事業に取組んでいます。

☆行事報告

・キッズサンガ

日高組主催のキッズサンガ(子供の集い)が八月十七日(土)に由良町衣奈西教寺で開催、組内から小学生三十二名と総代会をはじめ、仏教婦人会、仏教壮年会、寺族婦人会などの団体関係者合わせて約六十名が参加しました。

最初に片桐組長の調声で「らいはいのうた」のお勤め、誓いの言葉を唱和し、続いて「阿弥陀さまのお話」を楠原副組長からなされました。法蔵菩薩さまが「全ての命を幸せにできるほとけさまになりたい」と誓われ、きびしい修行の後阿弥陀さまとなられたことなど、小学生向けのやさしいお話でした。

また、由良町退職者公務員連盟女性部の皆さんによるパネルシアターで、おしゃかさまのご誕生、花まつりの由来などのお話をパネルを使って語り聞かせ、子供たちも熱心に聞き入っていました。

また、座布団や新聞紙を使ったレクリエーションのあと、昼食にカレーライスに参加者全員で食べ、午後からはおみやげ作りや仏典童話の読み聞かせなど楽しい時間を過ごしました。

☆行事予定

・日高組「真宗法座」

日高組第十九回「真宗法座」を次の通り開催いたします。

日時 十二月十四日(土)

会場 円行寺(日高町小浦) 講師 安方哲爾師

どなたでもお参りできます。お誘い合わせお参り下さい。

・仏教壮年会連続研修会

仏教壮年会では、最近のお葬儀・本堂のお荘厳を中心とした連続研修会を左記の通り開催いたします。皆様の参加をお待ちいたしております。

第一回 十二月十日(火)

午後七時三十分

会場 蓮尊寺(由良町里)

第二回 平成二十六年

二月四日(火)

午後七時三十分

会場 信行寺(由良町衣奈)

第三回 平成二十六年

三月四日(火)

午後七時三十分

会場 円行寺(日高町小浦)